

令和4年度 市川三郷町立市川東小学校 学校だより

やまほ

令和4年11月28日

No. 8

発行責任者 石川明子

学校教育目標

「ふるさとを愛し 心身ともにたくましいこどもの育成」



学校HP

いろいろな考えに触れる

少人数学級の本校では、自分の考えと他の人の考えを比べ、さらに自分の考えを広げ深めるための手段の一つとして必要な「より多くの考えに触れる」機会を意図的に行う必要があります。同じ学年内での学習だけでは、限られた考えに終始してしまい、自分の考えがなかなか広がっていかないという事態が生じます。

そこで、その課題へ向けて様々な取組を行ってきました。



全校道徳 『言葉づかい なぜいけないのかな』

保護者参観を利用して、保護者の方にも授業に入ってもらいました。普段使っている言葉や場面の応じた言葉遣いなどを振り返り、親子で言葉遣いについて考える時間となりました。

1時間の授業だけで改善することは難しくても、みんなで考えることで自分の生活を改善するきっかけとなります。

東っ児交流会「学習発表」

これまで学習してきたこと、特に今年は校外学習で見学してきた所について深く掘り下げ、学習したことなどを発表しました。発表に向け伝えたいことを焦点化し、どうしたら伝わりやすいか聞き手を想像して考えるなど、各学年が発達段階に応じて工夫した発表を行いました。学習に関わっていただいている方々も招待し、本校の子ども達の様子をご覧いただきました。



来年度もこのような形で学習発表の場を設定していきます。

複数学年による授業・活動



5・6 保健



2・3 学級活動

市川南小との合同校外学習

修学旅行を始め、各学年の校外学習を市川南小と合同で行っています。同学年の人達と交流する機会とっています。

地域学校協働本部・PTA役員合同会議開催

＜来年度の運動会の方向について＞11月21日（月）

他の地域にはない地域の方が入る種目がある市川東小学校の運動会。ウィズコロナに向けた運動会の方向について、地域学校協働本部（区長・公民館長・公民館主事・PTA会長・コーディネーター）とPTA副会長2名にも参加していただき合同会議を実施しました。学校の考え方をお伝えするとともに、地域の様子についても知る機会となりました。新型コロナウイルス感染症がなかなか収束しない中で、子どもの健康と安全を守りながら、山保にある学校として、また、新しい学校の在り方として、どのように作り上げていくことができるのか意見をすりあわせる機会となりました。

感染状況を予測することは困難ですが、秋に開催する運動会について半年前の団体長会議までに学校の方針を決定させていただきます。子どもの安全を守るための対策として、基本的な感染対策の徹底や飲み食いは禁止させていただくなどのご協力をお願いすることも考えられます。引き続き、地域の皆様のご理解とご協力を重ねてよろしくお願いいたします。



教科担任制

今年度から2年間、市川中学校・市川小学校とともに県の研究指定校として、小中の連携による児童の不安解消（教科中1ギャップの解消）、学力向上、効果的な時間の活用（教職員の負担軽減）へ向けた教科担任制について研究を進めています。本年度は、「理科」での研究を行っています。小学校では、5・6年生の理科を教科担任としており、本校では、教員が分担して複数学年の教科を受け持つなどして、中学校へのスムーズな接続と教職員の負担軽減を図っています。



市川中学校での研究会の様子

これまで、3校の教職員による拡大研究会や市川中学校1年生の理科と市川小学校5年生の理科の研究授業など、様々な方向からの研究を行っています。研究授業では、実際に出向いて授業を見る教員と学校からオンラインで授業を見るなど、学校にいながらにして授業を見て、話し合いに参加できるハイブリッドな研究会が行われました。ICTを活用し、研究の仕方も急速に変わっていると感じます。3校の教職員がそれぞれの学校の様子を知り、中学校と小学校のつながりのある学びについてどうあることがよいのか研究を深めています。